

第3回キャリア教育推進連携シンポジウム



地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」

兵庫県教育委員会・県内市町組合教育委員会

「トライやる・ウィーク」の歩み

学校

阪神・淡路大震災の教訓(H7)

「心の教育緊急会議」の提言(H9)

「トライやる・ウィーク」の実施(平成10年度～)

「トライやる・ウィーク」の深化・発展(平成15年度～)

- ① 地域連携推進活動「トライやる」アクションの推進
- ② 市立特別支援学校における「トライやる・ウィーク」の実施
- ③ 「トライやる・ウィーク」協力者顕彰制度の創設

県民全てがかかわる兵庫の教育

家庭

- ・自尊感情の高揚
- ・社会的自立の基礎づくり
- ・社会活動への参画意識の形成

地域

「トライやる・ウィーク」とは 1

- ねらい:地域や自然の中で、生徒の主体性を尊重した様々な活動や体験を通して、豊かな感性や創造性などを自ら高めたり、自分なりの生き方を見つけることができるよう支援する
- 実施対象:県内公立中学校、特別支援学校・中等教育学校2年生全員
※平成24年度実績:366校 49, 514名 15年間:757, 428名
- 実施時期:6月または11月を中心とした1週間
※6月を中心に実施:64. 2% 11月を中心に実施35, 8%
- 実施内容
 - ・農林水産活動
 - ・職場体験活動
 - ・文化・芸術創作体験活動
 - ・ボランティア・福祉体験活動 等の社会体験活動
- 活動場所数:平成24年度実績:17, 312ヶ所 (生徒2, 9名に1ヶ所)
※15年間:のべ242, 396ヶ所
- 指導ボランティア数:平成24年度実績22, 855名 (生徒2, 2名につき1名)
※15年間:のべ322, 865名

「トライやる・ウィーク」とは 2

○推進体制

兵庫県「トライやる・ウィーク」推進協議会

知事、教育長その他、経営者協会
漁業・農業・森林組合等受入協力
51団体代表で構成(年1回開催)

市町「トライやる・ウィーク」推進協議会

教育長、連合PTA、校園長、教職員
受入協力団体等で構成
(年2回程度開催)

校区推進委員会

学校長、PTA、地域団体代表
指導ボランティア代表等で構成
(適宜開催)

○教育課程上の位置付け: 特別活動

○予算:

必要経費の一部(1学級あたり150千円)を、県から推進事業交付金として交付している

○保険制度:

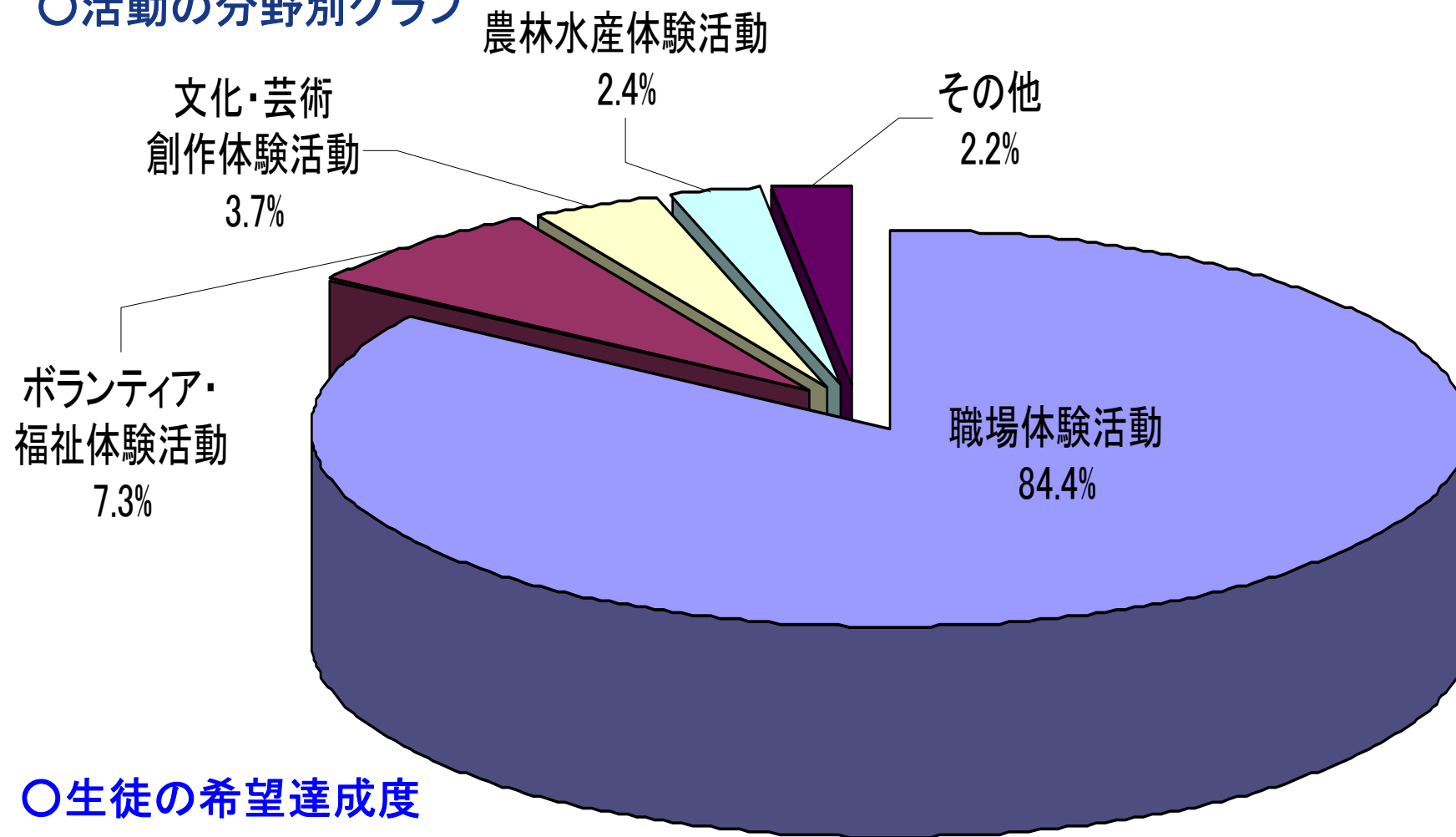
トライやる・ウィーク総合補償制度を設けている

○実施形態:

- ・班単位で行い、班ごとに指導ボランティアが支援する
- ・自宅から活動場所へ通うことを原則とするため1週間学校には登校しない

平成24年度の実施状況 1

○活動の分野別グラフ



○生徒の希望達成度

第一希望が叶えられた生徒 70.0%

第二希望が叶えられた生徒 17.1%

平成24年度の実施状況 2

○活動内容の一覧表

活動内容	平成24年度	平成23年度
① 幼児教育	20.8%	20.7%
② 販売	19.3%	19.2%
③ 役所・消防署等	7.9%	8.4%
④ 飲食店等	6.4%	6.6%
⑤ 社会福祉施設	6.3%	6.5%
⑥ 小学校・高校・大学	5.4%	5.0%
⑦ 製造・建築	5.0%	4.7%
⑧ 文化・芸術創作活動	3.7%	3.9%
⑨ スポーツ・体育施設等	3.7%	3.8%
⑩ 病院等	3.6%	3.7%

平成24年度の実施状況 3

特別支援学校の活動状況

○参加学校数：18校
(すべての市立特別支援学校)

○参加生徒数：115名

○指導ボランティア数：137名
介助補助員数：55名

○活動内容

- ・平清盛ドラマ館での接客
- ・空港事業所での搭乗手続き
- ・ハーブの小物作り
- ・クッキー作り



すべての県立特別支援学校についても、「YU・らいふ・サポート」事業により、同様に社会体験活動を行っています

活動の様子(平成24・25年度)

職場体験活動



活動の様子(平成24・25年度)

文化・芸術創作体験活動



事前指導



- ## 事後指導



将来の夢を発表する荒井中学校の生徒——高砂市荒井町千鳥3

(井上 駿)

将来の姿思い描く機会

高砂荒井中で「立志の集い」

中荒井町の荒井中
29日、生徒が将来
就きたい職業につ
える「立志の集い」
れた。同校の卒業
市内のビル管理会
「17」の浜谷和英
也が講演したほ
3人が、全校生
徒の前で将来の夢を発表
し、10年後、20年後の姿
に思いをめぐらせた。
立志の集いは、中学生
が自分の将来を真剣に考
え、行動する契機にしよ
うと同校が毎年開いてい
る。この日は、まず浜谷
社長が講演した。「30歳
で会社を起す」といっ
た10年ごとの目標を掲
げ、それらを実行してき
たことを紹介。「中学生
からでも、夢を持つて着
実に行動することが、将
来につながる」と語った。
続いて、各学年の代表
が全校生徒の前で、自分
の夢を発表。2年7寸少

で会社を起こす」といった10年ごとの目標を掲げ、それらを実行してきたことを紹介。「中学生からでも、夢を持って着実に行動することが、将来につながる」と語った。

続いて、各学年の代表が全校生徒の前で、自分の夢を発表。2年北村沙也香さんは、入院経験や「トライやる・ウィーク」の活動から、医療従事者になりたいと述べ、「みんなの前で発表することで夢が明確になった。医療の勉強もしていきたい」と力強かった。

このほか、2年生4グループが、トライやる・ウィークの経験を発表したほか、学校行事や部活動で、献身的な努力をした生徒をたたえる「ARAI AWARD（アライ・アワード）」の表彰式もあり、生徒12人が受賞した。

平成25年1月30日付神戸新聞(東播版)

- 活動のまとめを作文集や報告書にし
お世話になった事業所に報告する
- 指導ボランティアや保護者を招いての
報告会の開催
- 中学3年生に向けて、志望する進路実現
のために、目的意識を高める進路学習に
つなげる 等

「トライやるアクション」について

○ねらい:「トライやる・ウィーク」で培われた地域の教育力を活用し、地域のよさやふるさとの恵みにふれることができるよう、土日や長期休業中等を利用して地域の行事等の企画運営に取り組む

○実施対象:県内公立中学校、特別支援学校・中等教育学校生徒

※平成24年度実績:208校(56, 8%) 45, 430名

(1年生:15, 557名・2年生:16, 903名・3年生:12, 970名)

○実施時期:土日(58, 1%) 夏季休業中(39, 3%)が中心

○実施内容:
・トライやる・ウィークの実施場所での再体験
・地域の伝統行事、夏祭りや運動会等の企画、運営補助
・敬老会、デイサービス施設訪問、配食サービス 等



平成24年度アンケート結果より(生徒・保護者)

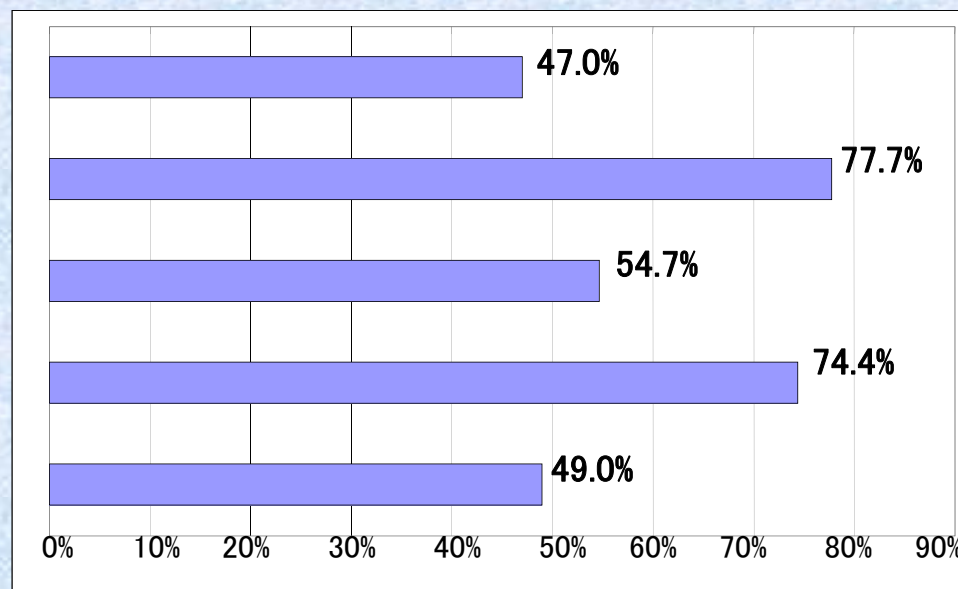
○体験する中で、家庭での会話が
増えた

○一週間は充実していた

○自分の考えや行動に影響があった

○機会があればまたやってみたい

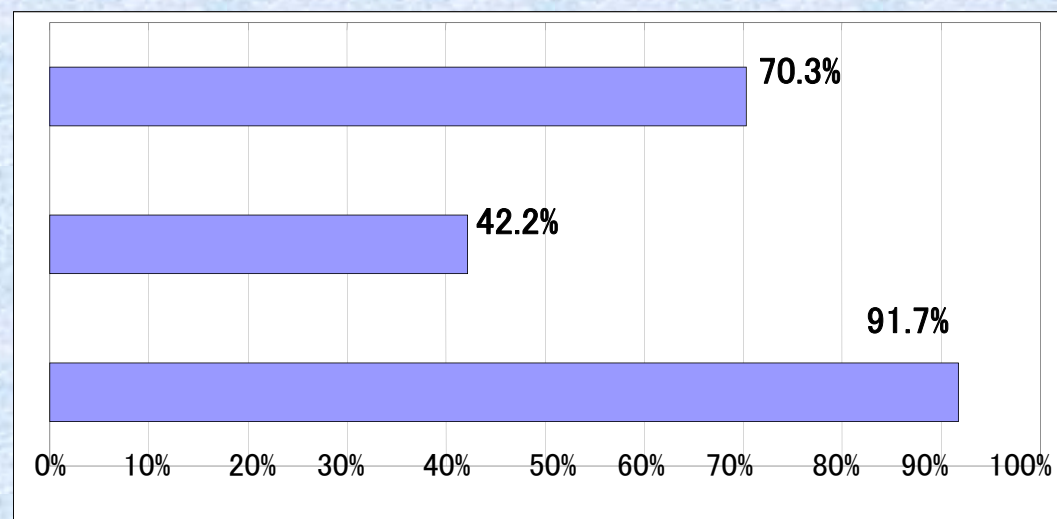
○終わってからも知り合った人たち
訪ねたい (生徒:47, 619名)



○体験する中でお子さんとの会話が
増えた

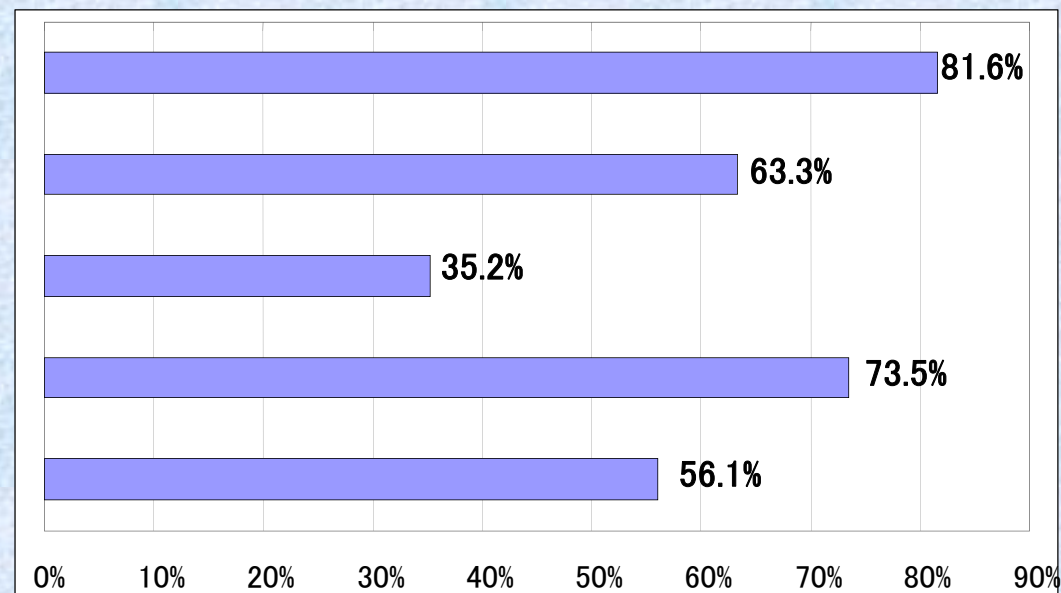
○わが子への見方が変わった

○機会があればまた参加させたい
(保護者:34, 362名)

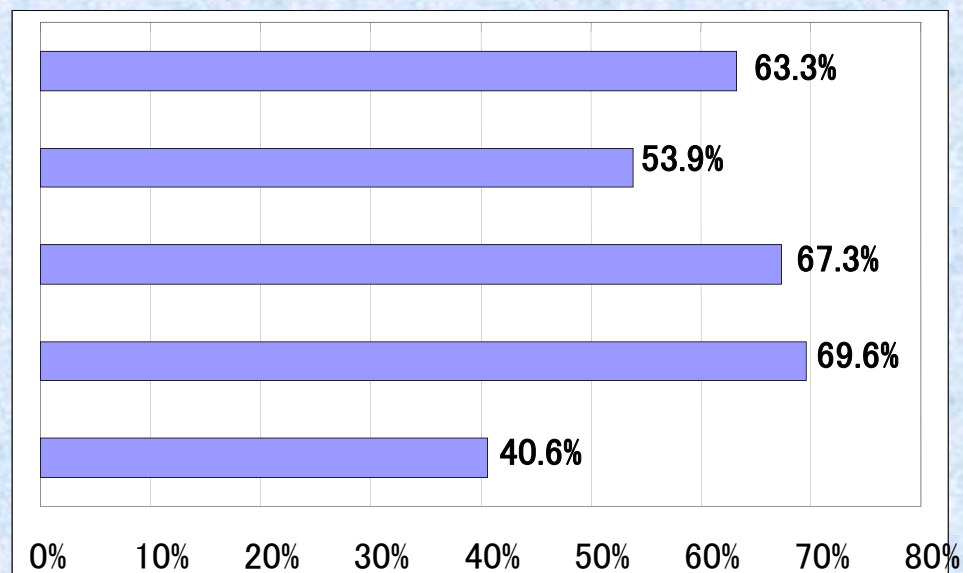


平成24年度アンケート結果より(指導ボランティア・教職員)

- 中学生の取組は意欲的だった
- 5日間で生徒に変化が見られた
- 中学生に対する見方が変わった
- 地域にとって有益な活動
- 学校と連携しながら実施できた
(指導ボランティア:12,430名)



- 一人一人を大切に実施した
- 生徒たちの変化が見られた
- 学校と地域社会にとって有益な活動
- 生徒の新たな側面などの発見があった
- 教育活動を考える機会となった
(教職員:3,230名)



「トライやる・ウィーク」を体験して

酪農への興味は中学2年生の就業体験「トライやる・ウィーク」で芽生えた。地元の朝来市山東町でホルスタイン約30頭を飼育する牧場に1週間通った。体操服に長靴姿。木製の道具を使い、同級生3人と、ふんのかき出しやわらを溝に入れる作業を早朝から昼すぎまで繰り返した。

●平成24年8月21日付神戸新聞(但馬版)

牛から始まる菓子作り

「生まればかりなのにすぐ。卒業後、鳥取県内の酪農家へ、本場にありたく、やりなす。に住民だ。昨夏に帰郷。がいを感している。竹本拓也」

「心に残った出来事は1枚の生乳の加工、販売まで。事業の調子が悪く、2000年の10〜14歳に対する10年の20〜24歳の人口比は40%。それでも但馬の未来を担う人材は確実に育っている。食品デザイナー、公務員、農家。その道を選んだきっかけは、見つけたやりがい。わりたい。思いは膨らんで。いつか、責任を重んじた。奮闘する若者たち」



焼きたてのケーキに生クリームを添える石田実可子さん「あいう工房のいっしょ」

たじまで働く

～奮闘する若者たち～

あいう工房 石田実可子さん(24)

中学生の成長体験



石田さんが就業体験後、描いたクレヨン画

田舎風景を思わせる工房から甘い香りが漂う。「あいう工房いっしょ」(朝来市和山町白井)で、搾りたての生乳と方マンホールチーズを混ぜた生地を1人で焼き上げる。ケーキ作りを始めてまだ3カ月余りだ。同店は、県内の個人農家で唯

「シャーシー牛のみを育てる酪農家吉井英之さん(59)、裕也さん(33)親子が営む。今春、新たに設けた工房でチーズケーキを作り始めた。口当たりはふわつと柔らか。アンスのジャムの光沢が食欲をそそる。入社間もなくケーキ作りを任せられた。「食べてほしいと思える商品、直接お客さんに販売できる」。のしかかる重圧にも前向きだ。

酪農への興味は中学2年生の就業体験「トライやる・ウィーク」で芽生えた。地元の朝来市山東町でホルスタイン約30頭を飼育する牧場に1週間通った。

体験最終日の夜、思わぬプレゼントがあった。「生まれそう。だ。牧場を営む夫婦から電話を受けた。牛舎にいた。雌牛の周囲にはわらのベッドが敷かれていた。破水し、真っ白な牛が頭をのぞかせる。命の誕生の瞬間に目をのぞいた。

成果と課題

○成果

- ・「トライやる・ウィーク」を支えているのが、学校・家庭・地域の連携システムである。子どもの教育を支援する営みを通して、地域に活気をもたらし、地域全体で子どもたちの育成に関わろうという機運を醸成したりするなど、地域コミュニティの構築にも寄与している。
- ・「トライやる」アクション等による中学生側から地域への働きかけや地域社会への参画が進んでいる。
 - ・「トライやる・ウィーク評価検証委員会（平成20年3月）」における評価
- ・「トライやる・ウィーク」の各活動は、生徒一人一人の主体性を大切にした内容となっていることが評価できる。キャリア形成を図る社会体験やボランティア体験、芸術文化体験など多様な体験活動が行われている。
 - ・「兵庫型「体験教育」の評価・検証委員会（平成23年3月）」における評価

○課題

- ・長年の実施により定着しているが、学校によって取組の熱心さなどに温度差が生じたり、活動が行事化してしまい、子どもたち一人一人の希望に応じた受入先の確保が難しくなっている。
 - ・「兵庫型「体験教育」の評価・検証委員会（平成23年3月）」における評価



中学時代に、将来に夢や希望を抱いて自己の可能性を伸長させるために、学校・家庭・地域が連携して中学生を支援していきます